

《福田恒存「関係論」で解る、小林秀雄著『ヒューマンイズム』:エリオットと蕃山・仁齋等との近似》

- \* ヴィジョン(理念)⇒からの関係「教養」⇒②ヒューマンイズム⇒②の漠然とした性質への容認と純粋な機能・価値の合点⇒エリオット。
- \* 志(ヴィジョン・理念)を持つ人⇒からの関係「恩・教養」⇒実践不問⇒師友と道徳議論⇒蕃山・仁齋等。

《難解 小林秀雄 には福田恒存の「関係論」が最適》

《著『ヒューマンイズム』 エリオット》

①歴史(絶対的概念)⇒からの関係[生きた教養(個性+感受性の内に涵養)]⇒②ヒューマンイズム(教養的概念)⇒②の漠然とした性質への容認が②の純粋な機能・価値の合点⇒社会に生きる洗煉された自己の姿(①への適應正常)。

《著『ヒューマンイズム』 熊澤蕃山》

①志(ヴィジョン・理念)を持つ人⇒からの関係「教養・恩」⇒②実践不問(人間的:ヒューマン)⇒②で師友と道徳議論遊び⇒蕃山等(①への適應正常)】

①本(ほん)・志・人倫(絶対的概念)⇒からの関係「②まじはり・恩・教養(D1の至大化)」⇒実践不問(②的概念人間的:ヒューマン)⇒②で師友と道徳議論遊び⇒蕃山(①に適應正常)。

《著『ヒューマンイズム』 中江藤樹》

①天地・人倫(絶対的概念)⇒からの関係[「天地の間に己ひとり」在る:學問の良心]⇒②孝(學問の良心的概念)⇒②の用法・距離把握[②の原理の實行による自證]⇒藤樹脱落。藩主藩學よりも②を優先(①への適應正常)。

《著『ヒューマンイズム』 伊藤仁齋》

①論語(最上至極宇宙第一)・孔子・孟子・古典(絶対的概念)⇒からの関係(①を熟讀精思「心目の間に瞭然たらしむ」る心法で捕らへる⇒「心法」對立概念(②朱子學)⇒②の訓詁註釋を否定⇒仁齋:孔子と交はる楽しみ(①への適應正常)。

《著『徂徠』・『辯名』》

①歴史・古典・古書・言葉「太初に言あり」・道・名・孔子・聖人(絶対的概念)⇒からの関係[②辯名(①を明らか)に知を傾け盡した信念]⇒②的對立概念(③朱子學的言語)⇒③の訓詁註釋を否定⇒徂徠(①への適應正常)。

《著『徂徠』・孔子》

①確かな物(先王:絶対的概念)⇒からの関係『好みこれに違ひこれに熟しこれを行ふに至つて智を成した』『生に娒つ(待つ)・道は行ふ所』・生きる方が根柢⇒②言葉⇒巧言を嫌ふ⇒孔子(①への適應正常)。

《著『考へるといふ事』 本居宣長》

①あはれといふ物・言葉(絶対的概念)⇒からの関係(むかへる・かむかふ・考へる)⇒②言語⇒②への訓詁註釋否定⇒宣長(①への適應正常)。

《著『プラトンの國家』》

①巨獸(場:社會・國家)⇒からの関係(②必然・欲望・真理の尺度・屈從)⇒②的概念(善惡・正義不正義・自由・平等差別)⇒を撫でる・意見・學說⇒①の馴らし方にソフィスト達・大衆が困惑(①への適應異常)。

《福田恒存「関係論」概略》

\* 「①場(場面)⇒からの関係(實在物)⇒②言葉(潜在物:関係的概念)⇒②の用法で②と自分(Δ梓)との距離測定の成立⇒①への適應正常が叶へられる。

\* 参照著『せりふと動き』(場から生ずる)心の動き(関係を形のある「物」として見せるのがせりふの力学(フレイジング等の用法)。故にその言葉との附合ひ方(フレイジング・so called)によつて、人間は場との関係の適應正常が叶へられる。

《右圖(絶対的概念・場)からの関係》

- \* ヴィジョン(理念)⇒からの関係「教養」(エリオット)。
- \* 志(ヴィジョン・理念)を持つ人・本(ほん)・人倫⇒からの関係「まじはり・教養・恩」(蕃山)。
- \* 天地・人倫(絶対的概念)⇒からの関係[「天地の間に己ひとり」在る:學問の良心](藤樹)。
- \* ①論語(最上至極宇宙第一)・孔子・孟子・古典(絶対的概念)⇒からの関係(①を熟讀精思「心目の間に瞭然たらしむ」る心法で捕らへる(仁齋)。
- \* ①歴史・古典・古書・言葉「太初に言あり」・道・名・孔子・聖人(絶対的概念)⇒からの関係[②辯名(①を明らか)に知を傾け盡した信念](徂徠)。
- \* 確かな物(先王:絶対的概念)⇒からの関係[「好みこれに違ひこれに熟しこれを行ふに至つて智を成した』『生に娒つ(待つ)・道は行ふ所』・生きる方が根柢(孔子)。
- \* あはれといふ物・言葉⇒からの関係[むかへる・かむかふ・考へる](宣長)。
- \* 巨獸(場:社會・國家)⇒からの関係[必然・欲望・真理の尺度・屈從](ソフィスト達・大衆)。

